

巻頭言

エネルギー環境システム研究所の発足にあたり

八戸工業大学学長 藤田 成隆

八戸工業大学では、平成22年5月よりこれまでの異分野融合科学研究所を発展的に改組して、エネルギー環境システム研究所を発足しました。

エネルギーと環境は近年になり地球規模で最重要な課題となっております。エネルギーの需要はアジアなどの発展に対応して今後とも世界的に増加することが予想され、また温暖化対策として二酸化炭素の削減に向けて取り組む必要があります。このため持続的なエネルギー源対策として、化石燃料から原子力や自然エネルギーへの長期的な転換を図ることと同時に、エネルギーと社会システムをより適切に運用してゆくことが迫られております。

地域についてみますと、青森や北東北はエネルギーや環境課題の拠点としてその役割が益々大きくなっております。青森県は風力発電量がわが国でトップクラスであり、原子力発電や原子燃料サイクル施設が集中立地し石油備蓄基地もあります。また、太陽エネルギーのメガソーラーの建設準備やバイオマス開発も進められています。

八戸工業大学ではエネルギーと環境にかかわる教育を重視して、カリキュラムの改訂、フォーラムの開催、環境報告書の作成などを行ってきました。さらに、エネルギーと環境にかかわる種々の教育・研究プロジェクトを進め、電気自動車によるエコシステムの検討、環境低負荷の建設課題、エネルギー環境基礎教育、原子力人材育成教育、県境産業廃棄物問題など多くの課題に、国のプロジェクトとして採択され集中的に取り組んできました。

以上のような背景から、エネルギーと環境およびそれらにかかわる種々の社会システムの研究をさらに推進するために、これまでの異分野融合科学研究所を改組し、新しくエネルギー環境システム研究所としてスタートしました。研究所の使命は内外の重要課題に大学のポテンシャルを活用して取り組むことであり、特に地域とのかかわりの深い課題に対して大学における各工学技術分野と社会科学分野も含めて集中的に挑戦し、解決していくことと考えます。

研究所紀要はこれまでの巻を引き継ぎ、本誌を第9巻（平成22年度）として発行しました。今後ともご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成23年3月